

教材教具および題材	学部	授業名 (主たる教科領域)	執筆者
あわあそび・あわあわアート	小	グループ学習 高学年 ハリセンボン (図画工作)	柴田響子 堤由香里

<ねらい>

- ☆ 手指をしっかりと動かして、水や石けんを混ぜ合わせ、泡を作る。
- ☆ 泡の感触を手で触って楽しんだり、道具を使って器に入れたりする。
- ☆ 泡の色を混ぜ合わせて混色を楽しんだり、指で自由に描いたりする。

<内容(作成方法・使用方法・工夫点など)>

①絵本『ぐるぐるせんたく』(アリス館)

- ・絵本の読み聞かせを見聞きました。「ポン!」という言葉に合わせて洗濯物を洗濯機に入れるまねをしたり、洗濯機が回る様子をかいぐりで表現したりしました。

②泡を作ろう

- ・すりおろし器で、固形石けんを削り、細かい粉にしました。
- ・石けんの粉にペットボトルで色水(水に食紅を入れて着色)を入れ、泡立て用ネットで泡立てました。



③泡で遊ぼう

- ・たくさんの泡に触って、感触を味わいました。
- ・山盛りの泡をお玉で器によそったり、他の洗面器に移したりして、遊びました。
- ・泡を泡立て器で泡立てたり、へらでかき混ぜたりしました。
- ・段ボールにお玉やへらで泡を盛り、手や道具で広げて遊びました。
- ・最後にはたくさんの泡を水道の水で流してきれいに洗いました。



④あわあわアート

①～③の泡あそびを十分に楽しんだ後、あわあわアートの作品を作成しました。

- ・絵の具・水・ボンドを混ぜた液で、石けんの粉を溶き、ボンド入りのあわを作っておきます。(教師の作業)
- ・泡をおたまで紙の上によそいます。
- ・手で塗り伸ばしたり、絵を自由に描いたりして、作品にします。
- ・乾かすと、立体的な作品になります。



<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- 泡の感触を十分に楽しむことができ、ダイナミックに手指を動かすことができた。
- 初めは直接触ることに抵抗があった児童も、手を洗う感触と同じなので、徐々に慣れ、ダイナミックに触ることができるようになった。
- 道具をいろいろ使うことができて（へら・お玉・泡立て器・器・スプーン）素材に多様な関わり方ができた。
- 色を付けたことで、造形的な楽しさも味わうことができた。

<その他（材料、費用、購入先等）>

- 固形石けん・ボディソープ 食紅 絵の具・ボンド
- すりおろし器・泡立て用ネット（100均で購入）
- へら・お玉・泡立て器・器・スプーンなど